

八王子市教育委員会 殿

令和6年度 八王子市立みなみ野小中学校 学校経営報告書

八王子市立みなみ野小中学校

統括校長 仙北谷 仁策

このことについて、以下のとおり報告します。

1 今年度の取組と自己評価（A：十分達成 B：おおむね達成 C：一部課題あり D：努力が必要）

（1）教育活動への取組と自己評価

ア 小中一貫教育の推進 → B

今年度、本校は異動で校長と副校長が入れ替わった。そこで、4月当初から、まずは校長のホットラインを構築すべく、グループ校の校長に声を掛け、SNSアプリを利用して、校長ホットラインを構築した。これについては、「気軽に連絡を取り合うことができる」というメリットがあり、例えば天候による教育活動の変更の有無であるとか、小中一貫教育の推進に係る連絡事項や課題の共有の他、不審者や獣害防止の連絡など、広く活用できた。

小学校2校（本校とみなみ野君田小）と中学校1校（本校）との集合協議会を、持ち回りで年3回開催できた。当日は授業参観と協議会を実施した。（テーマを設定して、協議・報告を行った）また、これまでも実施している「具体的な連携（関わり）」については、①桑都八王子かるた大会（みなみ野中3年と、みなみ野君田小2年及び本校1年）②合唱祭合同参観（みなみ野君田小6年と本校6年）③スポーツフェスティバル同日開催による合同の開会式と全校競技（みなみ野小学校及びみなみ野中学校）④みなみ野生徒会による学校生活の紹介（みなみ野君田小6年及び本校6年対象）など、実際の交流を行っている。次年度以降も、新たに小・小連携として5年同士、6年同士の交流（学校間の行きかい）も計画している。

【関連する保護者アンケート：3 小中学校が合同で行う取組を知っている。 小77%→72%、中71%→81%】

＊その他、青少対の地域清掃活動や学校運営協議会に双方の校長や副校長が参加し合うなど、様々な活動で、子供や大人に限らず、人と人との交流を行っている。

イ 確かな学力の定着 → B

学校経営方針により、日々の授業を大切にさせている。授業観察や事後指導などにより、授業改善の意識を高めた。また、学力向上プロジェクトチームという校務分掌により、放課後の補習教室を学年等で協働して取り組むことにより、一定の定着につなげることができた。特に、グループ校の学力ミニマムとして、独自の分析による具体的な指導の方向性について共通理解し、それを日々の授業に生かすようにしている。令和6年度末には「都立高等学校の数学入試問題」を校長及び担当が分析し、次年度用の資料を作成した。これらを国語、社会、理科、外国語（英語）に拡大していきたい。

【関連する保護者アンケート：7 授業や学校行事に意欲的に取り組むよう指導が行われている。 小82%→88%、中79%→84%】

【関連する保護者アンケート：8 授業において工夫に取り組んでいる。 小82%→85%、中78%→82%】

【関連する保護者アンケート：9 学習活動に対する評価は適切・公平である。 小77%→83%、中61%→71%】

【関連する保護者アンケート：12 学習環境の整備に取り組んでいる。 小80%→79%、中72%→80%】
ウ 特色ある教育の推進 → C

これまでの「特色ある取組」として、「小中の円滑な接続、習得目標問題の定着、小中合同のあいさつ運動」などを掲げ、年間をとおして取組を進めているが、例えば「朝読書」については中学校では定着するまでになったが、小学校では「読み聞かせ」などでは実施にばらつきがある。また、全体的に見ても、すでに定着しているものもあることから、更なる改善や新しい取組の開発も視野に入れていることから、自己評価を下げた。具体的には、中学校の部活動に関連することや令和7年度からの校内研究に関連すること、また保護者や地域を巻き込んだ啓発事業（健全育成や健康・安全教育）などである。

【関連する保護者アンケート：2 学校は特色ある教育活動を行っている。 小81%→86%、中80%→85%】
エ 新しい課題に対応した教育の推進 → B

「GIGAスクール構想」における、一人1台の学習端末の活用については、丁寧に実践を進めている。そのため、日常の授業についての使用については、授業観察などから、ある程度の定着がなされたと評価している。本校では、長期休業前後の児童・生徒把握や3学期の土曜学校公開時に、家庭とつなげたいいわゆる意図的なオンライン授業を実施はしていないが、一部児童及び保護者のニーズに応じて実施している。（不登校児童への配信事例あり）

来年度から、新たにみなみ野小2年及びみなみ野中1年向けに、プログラミングの外部講師授業を計画している。ゆくゆくは、学校全体のカリキュラムを整備し、義務教育段階で一貫したプログラミング教育を推進していく。

【関連する保護者アンケート：8 授業において工夫に取り組んでいる。 小82%→85%、中78%→82%】
オ 人権教育の推進と道德教育の充実 → C

職員会議において、主に校長作成のレジュメの活用により、教職員の人権感覚の向上や環境の整備に努めた。服務事故防止研修を年2回実施するとともに、自己申告面接を活用し、一人一人の意識の確認や指導・助言を行った。

前任校での「よいおとな」（よいところを褒めよう、いつも笑顔を大切に、怒らず叱ろう、止まって深呼吸、なんでも話し合おう）というキャッチフレーズを本校でも学校経営方針に掲載し、教員への意識啓発を図った。ただし、人権教育担当による具体的な取組が十分ではなかったため、次年度への継続課題とする。

道德教育の充実についても、学校経営方針に改訂した教育目標との道徳的な関連を示し、道德の授業への意識改革（全教育活動を通じた道德教育の一層の推進）を求めた。2学期の学校公開では、道德授業地区公開講座を開催した。第二部では、保護者向けに外部講師による講演会を行ったが、2～3年に一度は「道德教育の基本と在り方」について、校長がスライドを用いるなどしながら説明する機会を設けていきたい。

今年度も青少対活動の一環で、健全育成に関わる標語作りを行ったが、例年の夏の予定がずれ込んでしまい、最終的には3月末の掲示となった。全校児童がいじめやコミュニケーション、規範意識などについて考える機会となったが、次年度は以前のように夏頃の実施になるよう努める。みなみ野中学校区における生徒会や児童会・代表委員会とのコラボによるいじめ撲滅の取組（ピンクシャツ・デー）と併せ、引き続き次年度も行っていく。

【関連する保護者アンケート：5 学校は教育活動全体を通して、自他の大切さを認め、行動できるような教育を進めている。 小82%→86%、中77%→83%】

【関連する保護者アンケート：6 学校はいじめの未然防止や早期発見・早期対応等、いじめを許さない学校づくり

に組織的に取り組んでいる。 小76%→81%、中75%→81%】

カ 特別支援教育の推進 → B

特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会を組織的に開催し、全学年それぞれにおける「配慮を要する児童」の認識を共有したり、年度終わりに「その後、現在の様子はどうか」といった変容を共有する場を設けたりした。なお、特別支援教育コーディネーターについては2名配置であったが、それぞれの職種（分掌）を考慮し、次年度はさらに複数の増員についても検討していく。

特別支援教育の理解のために、校長作成の職員会議資料では複数回に分けて「LDの理解」に努めた。また、学校経営方針に大切な考え方をキーワードとして載せたり、臨床心理士や巡回相談員のコメントを紹介したりした。さらに、9月には明星大学教授の星山麻木氏による教員研修を行い、小学校の教員だけでなく、希望する中学校の教員も参加し、基本的な考え方や配慮や支援の必要な児童・生徒との関わり方について、具体的な研修を行った。

【関連する保護者アンケート：14 特別支援教育に取り組んでいる。 小67%→73%、中58%→75%】

キ 子供たちが楽しく通える学校の実現 → C

いじめの未然防止、早期発見、早期対応のため、いじめアンケートを、ふれあい月間に合わせて年3回実施した。また、アンケートの取り扱いなど基本的な考え方については、職員会議や生活指導夕会を通じて、校長から指導した。10月には道徳授業地区公開講座との連携も図りながら、「いじめ防止授業」を実施し、学校のいじめに対する姿勢を示す機会を設けた。弁護士によるいじめ防止授業も、小6年、中2年でそれぞれ実施している。

本校ではスクールカウンセラーによる全員（個別）面談を、小2年（グループ面談）にも広げ、これまでの小5年、中2年と、義務教育9年間のうち3か年（3回）で実施している。小学校におけるスクールカウンセラーとの関わるサイクルを他校の2倍とし、より相談できる環境づくりとしている。

一方で、実際に特定の学年で、主に放課後の遊びの中で、友達との不適切な関わり方も複数件あるなど、いじめ及びそれに類する事例も少なからず起きている。（その都度、保護者とも連携し、問題の解決に向けた対応をしている）また、健康や保護者の考えなども含まれる多様な理由で、複数の児童が、結果として学校に来られないケースが発生している。保護者と同伴して遅れて登校する児童も複数在籍している。（登校しぶり傾向も認められるため、校内委員会などで問題の共通理解と改善策の協議などを行っている）本年度は不登校支援として「おいでよ」教室という居場所を設け、多くの生徒が利用することができたが、不登校については学校として大きな課題である。

以上の点から、学校として相対的には自己評価を下げたい。

【関連する保護者アンケート：4 学校は安全管理に取り組んでいる 小84%→92%、中86%→87%】

【関連する保護者アンケート：6 学校はいじめの未然防止や早期発見。早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。 小76%→81%、中75%→81%】

【関連する保護者アンケート：10 学校は生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。 小81%→86%、中77%→82%】

ク 児童理解に基づく指導の徹底 → B

児童理解に関する様々な研修や学ぶ機会を意図的に設けた。職員会議などでは、各種資料を提示し、児童理解の様々な側面を知ることができるようにした。服務事故防止研修を年2回実施するとともに、自己申告面接を活用し、一人一人の意識の確認や指導・助言を行った。（下線部、再掲）

ケ OJTを中心とした校内研修体制の確立 → C

事案決定における起案・決裁を第一のOJTと位置付け、日々の職務において人材育成を進めた。ただ、校長着任1年目ということもあり、副校長を含め、主幹教諭や主任教諭の意識が求める水準まで高まったとは言えない。今後も事案決定ラインの在り方について、日々のOJTとして取り組んでいきたい。

コ 地域運営学校としての保護者や地域住民による協力・参画の推進 → B

本年度は、学校運営協議会を予定どおり開催することができた。そこでは、学校からの情報提供や協力依頼、共同事業の企画・運営などを適切に行った。次年度はメンバーの入れ替えはなく、基本的に継続となるなど、今後の運営も大きな課題はないと捉えているが、中長期的には「次の世代・人材」を少しずつ意識していきたい。

いわゆるPTA活動については、役員たちが中心となり、それぞれの分担業務を適切に行ってくれた。小P連及び中P連には所属していないものの、それぞれが熱心に取り組んでくれたお陰で、教育活動に大きな支障もなく、児童・生徒の健やかな成長に結びついた。

学校からのお便りについては、必ず校長が決裁し、誤字脱字を含む内容の吟味を行い、保護者や地域から信頼される文書発出となるように努めた。

【関連する保護者アンケート：13 学校は保護者に対して、適切に情報を出している。 小82%→89%、中80%→87%】

＜以上、関連する保護者アンケートも、前期→後期の集計ポイントとして併記した＞

(2) 重点目標への取組と自己評価

ア いじめや不登校等の諸問題に対する組織的な対応の強化 → B

4月当初に、保護者会やお便り等で周知徹底を図った。また、児童・生徒朝会においても取り上げ、「目指す児童像」を具体的に示すことができた。毎週1回のいじめ防止対策委員会の活動も、生活指導主任が中心となり（分掌長を兼務）、事例を共有化させ、対応などを可視化させたことで、校内全体で事実を把握するとともに、対応についても共有することで、OJT的な学びにもつながった。

イ 八王子市版GIGAスクール構想に基づく「定着期」としての取組の推進 → B

「GIGAスクール構想」における、一人1台の学習端末の活用については、丁寧に実践を進めている。そのため、日常の授業についての使用については、授業観察などから、ある程度の定着がなされたと評価している。本校では、長期休業前後の児童・生徒把握や3学期の土曜学校公開時に、家庭とつなげたいいわゆる意図的なオンライン授業を実施はしていないが、一部児童及び保護者のニーズに応じて実施している。（不登校児童への配信事例あり）
来年度から、新たにみなみ野小2年及びみなみ野中1年向けに、プログラミングの外部講師授業を計画している。
ゆくゆくは、学校全体のカリキュラムを整備し、義務教育段階で一貫したプログラミング教育を推進していく。

（下線部、再掲）

ウ 学校力の向上を目指した人材育成 → C

主に2・3年次研修での校内授業や自己申告における授業観察及び校内研究での研究授業において、互いに授業を見合い、協議を深める場を設定した。しかし、理科教育推進担当や外国語教育担当、人権教育担当など、テーマを決めた公開授業を推進していきたいと考えていたが、確実な実施ができなかったことから、評価を下げるとともに、次年度以降の課題とする。

エ 「ニュー・ノーマル」時代における新しい教育活動・行動様式の実践 → B

以前のように体育館で全校児童を対象に朝会や集会を行うこともできたが、適宜、オンライン朝会・集会も併用

するなど、「コロナ時代」に取った手法を、積極的に取り入れている。一つの例として、給食時の座席形態であるが、インフルエンザ様疾患などの感染症が流行傾向にある場合には、以前のように座席を前に向けて喫食するなどの対応が自然にとれている。また、「運動会の終日開催」「夏季休業中の補習教室」など、「コロナ時代」を境になくなった活動も少なくないが、一方で「5年生の社会科見学」は復活した。意義やタイムパフォーマンスなどに照らし合わせ、今後も実施の有無については検討していきたい。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 基幹教員の異動等による人材育成の活性化

東京都による人事異動の基準が厳格化されたこともあり、明確な在籍年数の上限が示されている。初任者については、育成段階からやや独り立ちを果たすようなタイミングであり、他の教員も「本校に慣れて」数年後に異動しなければならない、というのが現状である。そのため、(昨年度も別の学校において同様な記述をしているが)一時的に学校力は低下せざるを得ないが、現在在籍している教員による引き継ぎ・伝承や、他校の手法を学ぶこと、あるいは市教委との連携など、考え得るあらゆる手法を取り入れて、計画的に人材育成を進めていく。自己申告の機会を十分に活用し、意見交換や進行管理、適切な指導・助言に努める。

(2) 八王子市教育課題研究推進校（STEAM教育）の指定による校内研究の推進

上の(1)にも通じるが、本事業を題材に、教員としての資質向上を図っていきたい。研究主題を「今、求められる「STEAM教育」とは? ～新たな体系づくりを意識して～」とし、その具現化を目指し、以下の内容に取り組む。

- | | | |
|---|------------|---|
| 1 | STEAM教育を知る | → 先行研究・先行実践に触れる。【主な活動：視察や収集、研修受講】
→ 先行研究・先行実践を学ぶ。【主な活動：教育内容の共有理解】 |
| 2 | STEAM教育を行う | → 先行研究・先行実践を参考に、試みる。【主な活動：授業試行】 |
| 3 | STEAM教育を創る | → カリキュラムを作成する。【主な活動：年間指導計画の試案作成】
→ カリキュラム・マネジメントによる平準化を図る【主な活動：適正時間や持続可能な活動の開発、学習評価の在り方などの改善・評価】 |

また、研究内容の普及や啓発を意識しながら、他校や関係機関とも連携していきたい。なお、現段階では、成果物としてリーフレットの作成を考えている。

(3) 不登校児童への対応（未然防止を含む）

本年度から、個票システムを独自に工夫して、欠席児童の状況把握を可視化させた。そのことをより有効的にするためにも、校内委員会にて児童一人一人の現状や課題をこれまで以上に意識した話し合いをしていきたい。

なお、GIGAスクール構想に基づく欠席時のタブレット活用（VLP：バーチャル・ラーニング・プラットフォームを含む）や別室登校支援（「おいでよ」教室）についても、最大限、児童や保護者のニーズに応えるべく、校内委員会で確認・検討を進めていく。

(4) 「部活動改革」の円滑な推進

令和9年度からの本格実施に向けて、すでに作成したロードマップに基づき、移行への取組をしっかりと進めていく。一方で、特別支援教室拠点校である柵田中学校からの「新たな部の設立」や、本校発案の「七国中学校との交流活動」、外部団体による地域以降などの発展的な取組を一層推進する。